

8. 高速高時間分解能法による左室容積曲線算出の試み——(2) 臨床的有用性について

高田 竹人 足永 武
 (新日鉄室蘭病院・内)
 若松 裕幸 大萱生 忠
 菊池 大 木戸 実
 (同・放)
 近藤 明文 老松 寛
 (札幌大・内)
 古舘 正従
 (北大・放)

RI アンギオグラフィーに、心収縮の経時的イメージをシンチフォトにて得る心周期ゲート法と、高速処理の高時間分解能左室容積曲線算出法とを加えルーチンに行なえるシステムを開発した。そして、各種心疾患の左室の不均等収縮の有無、駆出率 (EF), 最大収縮速度 (MSVV), 最大拡張速度 (MDVV), 駆出前期 (PEP), 駆出期 (LVET) などの検討を行なった。心筋梗塞では、梗塞部位の akinesis がみられ、左室容積の変化が少なく、EF も感少しており、心不全を伴う症例はこの傾向が著明であった。また MSVV, MDVV も低値であった。甲状腺機能亢進症では hyperkinetic な均等収縮拡張がみられ、EF は正常だが MSVV, MDVV は高値をとった。うっ血型心筋症では全体的に収縮が低下し、部分的な akinesis のある症例もみられた。EF, MSVV, MDVV は低値であった。対象および正常者の全例で、EF と PEP/LVET との間には有意の逆相関がみられた。本法は非観血的左心機能検査法として臨床的に有効と考えられる。

9. 下肢動脈血行不全に対する RI アンギオグラフィーの検討

湯川 元資 大久保 整
 久保田昌宏 森田 和夫
 高橋貞一郎
 (札幌大・放)
 数井 暉久 小松 作蔵
 (同・外2)
 墨崎 和夫 村山 憲一
 今野 晋作
 (同・中)

10. ²⁰¹TlCl 心筋シンチグラフィー画像の左室移行帯

湯川 元資 大久保 整
 久保田昌宏 森田 和夫
 高橋貞一郎
 (札幌大・放)
 田中 信行 小松 作蔵
 (同・外)
 墨崎 和夫 村山 憲一
 今野 晋作
 (同・中)

11. 負荷心筋シンチグラフィーによる冠動脈病変の部位診断

安藤 譲二 小林 毅
 宮本 篤 金森 勝士
 村上 林児 富田 壽夫
 安田 寿一
 (北大・循内)
 古舘 正従
 (同・放)

²⁰¹Cl 負荷心筋シンチグラフィーによる冠動脈病変の存在診断、部位診断に対する精度、信頼性について検討した。

対象は狭心症患者19例とその他胸痛を訴える患者11例の計30例である。全例に選択的冠動脈造影